横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた

利用ニーズ把握のための調査

結果報告書

平成 25 年 12 月

横浜市こども青少年局

目次

Ⅰ．調査の概要 1
Ⅱ．調査結果の概要 4
　１．未就学児調査 4
　２．小学生調査 11
Ⅲ．未就学児調査 15
　１．子どもと家族の状況 15
　２．保護者の就労状況 22
　３．日中の定期的な教育・保育事業の利用状況 29
　４．土曜・休日・夜間や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望 48
　５．子どもの病気の際の対応（平日日中の教育・保育を利用している方のみ） 54
　６．一時預かり等の利用 61
　７．地域における子育て支援等 73
　８．小学校就学後の放課後の過ごし方（子どもが３歳以上である方） 78
　９．育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度 85
　10．妊娠・出産・子育て全般 93
Ⅳ．小学生調査 112
　１．子どもと家族の状況 112
　２．保護者の就労状況 115
　３．放課後の過ごし方 121
　　１）放課後キッズクラブ（以下、キッズ）利用者 125
　　２）はまっ子ふれあいスクール（以下、はまっ子）利用者 129
　　３）放課後児童クラブ（以下、学童クラブ）利用者 133
　　４）企業等が運営する学童保育利用者 137
　　５）障害児通所支援事業（以下、放課後等デイサービス）利用者 139
　４．お子さんの障害、発達の状況 144
　５．子育て全般について 145
＜資　料＞ 156
　１．未就学児調査と小学生調査の同一設問結果比較 156
　２．単純集計結果表 169
　　１）未就学児調査 169
　　２）小学生調査 233
　３．調査票 261
　　１）未就学児調査 261
　　２）小学生調査 288

Ⅰ．調査の概要

１　調査の目的

横浜市子ども・子育て支援事業計画（仮称）を策定するにあたり、子育てをされているご家庭の現状とニーズを把握するため、「現在の利用状況」及び「今後の利用希望」等について、国の基本指針等に基づき、アンケート調査を実施しました。

２　調査の種類

⑴未就学児童の保育等に関する現状及び保護者ニーズ調査
⑵小学生の放課後等に関する現状及び保護者ニーズ調査

３　抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出（世帯重複ないよう抽出）

４　抽出世帯数

⑴未就学児調査	65,590 世帯
⑵小学生調査	66,190 世帯
合計	131,780 世帯

５　調査実施時期

７月 26 日～30 日	対象者あて発送
８月 23 日	調査回答期限

６　調査回収状況

⑴未就学児調査	回収数 31,374 世帯（回収率 47.8%）
⑵小学生調査	回収数 28,718 世帯（回収率 43.4%）
合計	回収数 60,092 世帯（回収率 45.6%）

区別回収状況

１）未就学児調査

No.	区	送付数	回収数	回収率(%)
1	青葉区	4,020	1,879	46.7
2	旭区	3,820	1,830	47.9
3	泉区	3,540	1,680	47.5
4	磯子区	3,530	1,602	45.4
5	神奈川区	3,810	1,844	48.4
6	金沢区	3,680	1,829	49.7
7	港南区	3,740	1,807	48.3
8	港北区	4,050	2,094	51.7
9	栄区	3,184	1,555	48.8
10	瀬谷区	3,213	1,439	44.8
11	都筑区	3,940	1,929	49.0
12	鶴見区	3,990	1,839	46.1
13	戸塚区	3,970	1,928	48.6
14	中区	3,360	1,402	41.7
15	西区	2,813	1,282	45.6
16	保土ケ谷区	3,640	1,723	47.3
17	緑区	3,700	1,740	47.0
18	南区	3,590	1,609	44.8
19	無回答	－	363	－
	横浜市計	65,590	31,374	47.8

２）小学生調査

No.	区	送付数	回収数	回収率(%)
1	青葉区	4,060	1,862	45.9
2	旭区	3,870	1,600	41.3
3	泉区	3,600	1,517	42.1
4	磯子区	3,500	1,528	43.7
5	神奈川区	3,740	1,682	45.0
6	金沢区	3,760	1,641	43.6
7	港南区	3,790	1,669	44.0
8	港北区	4,010	1,873	46.7
9	栄区	3,400	1,487	43.7
10	瀬谷区	3,490	1,376	39.4
11	都筑区	3,960	1,819	45.9
12	鶴見区	3,920	1,577	40.2
13	戸塚区	4,000	1,742	43.6
14	中区	3,290	1,227	37.3
15	西区	2,790	1,198	42.9
16	保土ケ谷区	3,690	1,502	40.7
17	緑区	3,750	1,576	42.0
18	南区	3,570	1,462	41.0
19	無回答	－	380	－
	横浜市計	66,190	28,718	43.4

本報告書の見方について

・図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次のとおり。

ＳＡ：単一回答（シングルアンサー）の設問

ＭＡ：複数回答（マルチアンサー）の設問

Ｎ：その設問に対する回答者数

・回答の比率（すべて百分率（％）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると 100％を超える場合がある。また、小数点以下第２位を四捨五入して算出しているため、合計が 100％にならない場合がある。

・ 複数回答や選択肢の数が多い質問については､見やすさを考慮しグラフではなく表を掲載しているが、クロス集計表は次の 2 種類を使い分けている。

①回答順位表--選択肢の中で、第１位の項目をグレーで塗りつぶしている。

②特性把握表--属性別にみて、全体の数値と比べて 5 ポイント以上数値が高い項目については、薄いグレーの塗りつぶしで強調文字を使用し、全体の数値と比べて 10 ポイント以上数値が高い項目については、黒の塗り潰しで白抜き文字で表示している。

・本調査で比較する５年前の調査は、以下の 2 種類である。

未就学児調査--次世代育成支援行動計画（後期計画）策定に係るニーズ調査（未就学児調査）

（平成 20 年度実施 調査票 10,230 世帯送付、回収 4,866 世帯（回収率 47.6％））

小学生調査--次世代育成支援行動計画（後期計画）策定に係るニーズ調査（小学生調査）

（平成 20 年度実施調査票 10,230 世帯送付、回収 4,047 世帯（回収率 39.6％））

・ 図表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。

Ⅱ．調査結果の概要

１．未就学児調査

１．子どもと家族の状況（15～21 ページ）

○一人っ子の世帯が 66.3%を占め、３人以上の子のいる世帯は約 3%である。
○母親が回答しているケースが 87.8%を占める。
○配偶者のいない世帯は約５%である。
○父親の年齢は 30 代後半が多く、母親の年齢は 30 代前半が多い。
○年収 500 万円以上が 60.9%を占める。５年前と比べると 300 万円以下の所得の低い世帯の割合が増えている。就労状況別にみると、所得が 300 万円以下は片働き（専業主夫）とその他での割合が高い。
○父親が子どもと過ごす時間は１時間が 30.0%ともっとも多い。母親が子どもと過ごす時間は、12 時間が 12.3%ともっとも多く、専業主婦の割合が高い。母親が働いている場合は５時間前後の割合が高い。
○はじめての子どもが生まれる前に、赤ちゃんの世話をしたことがない人は 74%。

２．保護者の就労状況（22～28 ページ）

○父親の 93.2%がフルタイム、産休・育休・介護休業中が 0.3%、休業中も含む就労中の 94.5%のうち、週 5～6 日勤務が 95.6%、１日８時間以上労働が 94.0%。
○休業中も含む就労中の父親の 83.6%が 6～8 時台に家を出て、79.6%が 19～23 時台に帰宅。
○就労していない母親は 53.9%、フルタイムの就労は 20.9%、パートタイムの就労は 12.9%、産休・育休・介護休業中も含む就労中の 43.8%のうち、週５日以上勤務が 77.1%、週４日勤務が 11.4%、週３日までの勤務が 10.5%。１日８時間以上労働が 50.5%、6～7 時間労働が 31.4%、５時間以内労働が 15.3%。
○休業中も含む就労している母親の 77.4%が 7～8 時台に家を出て、75.8%が 17～19 時台に帰宅。
○5 年前と比べると、父親はフルタイムでの就労が 95.8%→93.5%と 2.3 ポイント減少、母親はフルタイムの就労が 19.1%→29.9%と 10.8 ポイント増加し、「以前は就労していたが現在は就労していない」が 56.8%→51.8%と 5.0 ポイント、「就労したことがない」が 6.0%→2.1%と 3.9 ポイント減少。
○パート・アルバイト等で就労者のフルタイムへの転換希望は父親で 63.4%、母親で 35.8%、母親の 53.3%はパート就労を続けることを希望。
○現在就労をしていない母親の 24.7%は「子育てや家事に専念したい」と回答。「1 年より先に就労を希望する」と回答した 54.5%のうちの「1 番下の子どもが３歳のころまでに就労希望」が 24.8%、「6～7 歳のころまで」が 33.7%。
○現在就労していない母親 53.9%のうち、就労したいと回答したのは 74.5%で、そのうち希望する就労形態について、パートタイム・アルバイト希望 28.5%は、フルタイム希望 6.8%の約４倍。

３．日中の定期的な教育・保育事業の利用状況（29～47 ページ）

○「日中の定期的な教育・保育の事業」の利用は 62.8%。そのうち幼稚園利用が 45.0%、幼稚園の預かり保育利用が 4.3%、認可保育所・公立保育所 41.2%、認定こども園 2.0%。５年前と比べると幼稚園の利用が 55.3%から 45.0%と 10.3 ポイント減少し、認可保育所・公立保育所の利用が 30.6%→41.2%と 10.6 ポイント増加。

○子どもの年齢別にみると、０歳～2 歳では「認可保育所・公立保育所」が 61.7%～70.5%ともっとも多く、次いで「横浜保育室」が 13.9%～17.7%。３歳～5 歳では、「幼稚園」が 56.8～65.9%ともっとも多く、次いで「認可保育所・公立保育所」が 27.3%～34.4%。

○「日中の定期的な教育・保育の事業」全体

利用日数：現在は週５日利用が 80.2%ともっとも多い。希望は週６日利用が現在 2.6%から 5.6%に増えている。

利用時間：現在は１日５時間が 26.5%ともっとも多いが、希望は 6～10 時間（8.7%～13.4%）に分散し、長い傾向にある。

開始時間：現在は７時～9 時が 82.9%、希望は７時～9 時が 72.2%で、分布もほぼ同じ傾向にある。

終了時間：現在は 14 時が 32.7%ともっとも多いが、希望は 15 時～18 時（14.0%～15.4%）に分散し、遅い傾向にある。

○「幼稚園」利用者

利用日数：現在は週５日利用が 95.9%ともっとも多い。希望は週６日利用が現在 0.3%から 4.2%に増えている。

利用時間：現在は１日５時間が 57.0%ともっとも多いが、希望は 5～8 時間（12.6%～27.8%）に分散し、長い傾向にある、

開始時間：現在は８時～10 時が 97.3%、希望は８時～10 時が 85.3%で、分布もほぼ同じ傾向にある。

終了時間：現在は 14 時が 70.2%ともっとも多いが、希望は 15 時が 31.2%ともっとも多く、16 時、17 時も増え、希望は遅い傾向にある。

○「横浜市認定の幼稚園の預かり保育」利用者

利用日数：現在は週５日利用が 85.0%ともっとも多い。希望は週６日利用が現在 1.5%から 7.7%に増えている。

利用時間：現在は１日５時間が 27.7%ともっとも多いが、希望は 6～10 時間（11.4%～13.6%）に分散し、長くなっている。

開始時間：現在は７時～9 時が 87.6%、希望は７時～9 時が 75.2%で、分布もほぼ同じ傾向にある。

終了時間：現在は 14 時が 33.7%ともっとも多いが、希望は 15 時～18 時（12.5%～17.9%）に分散し、長い傾向にある。

○「認可保育所・公立保育所」利用者

利用日数：現在は週５日利用が 72.2%ともっとも多い。希望は週６日利用が現在 4.9%から 7.2%に増えている。

利用時間：現在は１日 10 時間が 26.7%ともっとも多く、希望でも 10 時間が 19.2%ともっとも多くなっており、ほぼ同じ傾向にある。

開始時間：現在は７～9 時が 80.5%、希望は 7～9時が 66.3%で、分布もほぼ同じ傾向にある。

終了時間：現在は 18 時が 38.7%ともっとも多く、希望でも 18 時が 26.1%ともっとも多くなっており、分布もほぼ同じ傾向にある。

○「日中の定期的な教育・保育の事業」の実施場所は、住んでいる区が 73.2%。「利用している理由」は、「子どもの教育や発達のため」が 46.9%、「就労しているため」が 38.2%。現在利用している人の満足度は満足（満足+やや満足）が 63.3%。

○「利用していない理由」は、「理由する必要がない」42.0%と「子どもが小さいため」37.9%が多い。また、「子どもが小さいため」と回答した人の 48.6%は、子どもが３歳になったら利用を考え

るとしている。また、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」の割合が３歳以上ではやや高くなり、５歳では 36.8%となっている。
○定期的に利用したい事業は、「幼稚園」が 59.3%、「認可保育所・公立保育所」が 45.4%、「横浜市認定の幼稚園の預かり保育」が 28.4%、「認定こども園」が 20%となっており、回答者の 95%が何らかの教育・保育事業を利用したいと考えている。
○子の年齢別では、「幼稚園」はすべての年齢で５割を超えているが、「認可保育所・公立保育所」は０歳の 60.7%から、年々利用の希望が低くなっている。
○就労状況別では、専業主婦の場合は「幼稚園」の利用希望が高くなっている。
○平日の日中の教育・保育事業を選択するにあたり、重視することは「自宅からの距離」が 79.8%ともっとも多く、次いで「教育・保育の理念や内容」が 67.2%「利用料金」49.9%となっており、この傾向はいずれの事業でも同様である。
○子の年齢別では、「教育・保育の理念や内容」は 3～5 歳、「自宅からの距離」「利用料金」は 0～2 歳で高い傾向にある。
○就労状況別では、共働き（フルタイム）で、「給食があること」「延長保育があること」「夏休み等の長期休業がないこと」が他に比べて高い傾向を示している。
○年収別では 500 万円以下で「利用料金」の割合が高くなっている。

４．土曜・休日・夜間や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望（48～53 ページ）

○土曜日の定期的な利用希望は 26.5%、日曜日・祝日は 12.9%となっており、利用したい時間帯は、どちらも 8～9 時からと 18 時までがもっとも多い。
○夜間(21 時～7 時)の定期的な利用希望は 3.8%と少ない。
○「毎週ではなく、たまに利用したい理由」は、「月に数回仕事が入るため」が 54.6%でもっとも多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が 36.7%、「息抜きのため」が 34.3%となっている。
○幼稚園利用者の 54.9%が、夏休み・冬休みなど長期休業期間中の預かり保育を希望。利用したい時間帯は９時～が 65.8%、15 時までが 25.7%ともっとも多い。
○「週に数日利用したい」と回答した人では、たまに利用したい理由に、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」56.7%と「息抜きのため」56.0%を半数以上の人が回答している。

５．子どもの病気の際の対応（平日日中の教育・保育を利用している方のみ）（54～60 ページ）

○この１年間に子どもの病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがある人は 78.3%。
○その時のもっとも多い対処方法は、「母親が休んだ」で 57.5%、次いで「就労していない保護者がみた」35.3%、「父親が休んだ」29.1%となっている。
○病児・病後児の保育施設の利用は年間５日以内が多い。
○「できれば病児・病後児のための保育施設等に預けたい」と思われた人は 37.8%で、その日数は、年間 1～10 日程度。
○病気やケガで病児・病後児保育施設等に子どもを預ける場合、82.0%が「小児科に併設した施設」、51.7%が「大規模施設に併設した施設」が望ましい事業形態と回答している。
○「利用したいと思わない」理由は、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」55.3%、「親が仕事を休んで対応する」44.0%。
○対処方法が父母や親戚以外と回答した人で、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」という人は 70.6%。その日数は、年間 1～10 日程度が多い。
○「休んで看ることは考えられない」と回答した理由は、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 37.0%、「休暇日数が足りないので休めない」が 31.1%。

６．一時預かり等の利用（61～72 ページ）

○不定期の就労のため利用される事業でもっとも多いのは「幼稚園の預かり保育」2.4%、次いで「認可保育所・公立保育所の一時保育」2.0%、「乳幼児の一時預かり」は 0.6%。「利用していない」は 78.6%。

○就労以外のため利用される事業でもっとも多いのは、「幼稚園の預かり保育」6.0%、次いで「認可保育所・公立保育所の一時保育」3.1%。「利用していない」は 66.3%。

○一時預かりを利用している理由は、すべての事業で、リフレッシュなどの就労以外の理由が多い。

○不定期の事業を利用しない理由は「利用料がかかるから」18.4%、「事業の利用方法がわからない」15.8%。「特に利用したいと思わない」は 49.7%。

○不定期の事業を「利用する必要はない」は 57.5%、「利用したい」は 33.1%で、「私用のため」73.9%、「冠婚葬祭、子供の親の通院のため」46.6%、「不定期の就労のため」20.7%。

○「大規模施設で子どもを預かる事業」70.7%、「地域住民が子育て家庭の近くの場所で預かる事業」が 23.8%。

○保護者の用事により、泊りがけで家族以外に預けることがあったのは 15.7%で、その時の対処方法は、「親族・知人に預ける」が 85.0%。「仕方なく子どもを同行させた」は 17.8%。

○保護者の用事により、泊りがけで家族以外に預けるケースの「困難度」は、「困難」48.5%と「特に困難ではない」50.0%と拮抗。

７．地域における子育て支援等（73～77 ページ）

○「地域子育て支援拠点」は認知度も 80.2%ともっとも高く、28.4%の人が利用している。この５年で整備がすすめられたこともあり、５年前と比較して、「地域子育て支援拠点」や「親と子のつどいの広場」は、どちらも認知度は 1.8 倍に上がり、利用も 3.0 倍上がっている。一方、「保育所子育てひろば」は「親と子のつどいの広場」よりも認知度が高く、利用者数も多い。

○子どもの年齢別利用状況では、「地域子育て支援拠点」は０歳、１歳、「親と子のつどいの広場」は０歳、「保育所子育てひろば」は１歳、「幼稚園はまっこ広場」は２歳の利用が多い。

○「利用していない理由」は、いずれの事業においても「保育所や幼稚園などを定期的に利用している」が 49.2%～61.8%。事業ごとの特徴を見ると、「地域子育て支援拠点」では「施設が混んでいる」が 9.6%、「親と子のつどいの広場」では「利用料がかかる」が 11.7%、「拠点」「広場」ともに「子どもの年齢が大きく室内では遊びづらい」がそれぞれ 16.8%、13.0%。「保育所子育てひろば」「幼稚園はまっこ広場」では「施設の内容や利用方法がわからない」がそれぞれ 13.8%、14.9%。

○地域での子育て支援に関する情報の入手は、「市・区の広報紙「広報よこはま」」が 49.5%でもっとも多く、次いで「知人・友人」41.8%、「市や区が発行するパンフレットやチラシ等」34.7%、「地域子育て支援の場や施設」27.2%、「市や区のホームページ」22.7%、「インターネット」21.1%。

○「母親教室」「保健師・助産師の家庭訪問」は「知っている」83.5%～86.6%、「知っている人」のうち、「利用したことがある」72.4%～72.7%。「妊産婦健康相談・女性の健康相談」は「知らない人」のうち、43.3%、「ハマハグ」は「知らない人」のうち、41.2%が今後利用したいと回答。。

８．小学校就学後の放課後の過ごし方（子どもが３歳以上である方）（78～84 ページ）

○「小学校就学後に放課後の時間を過ごさせたい場所」は、小学校低学年時・高学年時・休み期間中、いずれにおいても「習い事」が 44.3%～58.3%もっとも多く、次いで、「小学校施設を使った放課後事業」「自宅」の順。小学校低学年時の方が高学年時より「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「小学校施設を使った放課後事業」「放課後児童クラブ」の割合が高く、「習い事」の割合は低くなっている。

○「小学校施設を使った放課後事業」の 17 時以降の利用を「希望する」は、低学年、高学年、夏休み・冬休み期間中いずれにおいても 42.1%～45.4%とあまり差はないが、「希望しない」は、低学年で 46.0%、高学年で 33.8%、夏休み・冬休み期間中は 29.5%となっている。

○「放課後児童クラブ（学童クラブ）」の利用については、低学年、高学年、夏休み・冬休み期間中いずれにおいても 18 時まで 31.0%～34.1%と 19 時まで 29.9%～31.5%が多く、次いで 17 時までが 14.8%～18.4%。

９．育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度（85～92 ページ）

○「育児休業を取得した（取得中）」と回答した父親は 5.0%、母親は 33.3%。「育児休業を取得していない」と回答した父親は 89.0%、母親は 11.1%。

○「育児休業を取得した（取得中）」とする取得期間は、父親は 1～7 日が 80.8%を占め、母親は、11 ヶ月～１年が 21.6%と多い。

○育児休業を取得しない理由は、父親は「仕事が忙しかった」39.1%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」35.1%、「制度を利用する必要がなかった」31.8%。母親は、「子育てや家事に専念するため退職した」が 49.3%ともっとも多く、次いで、「職場に育児休業の制度がなかった」が 18.4%。

○母親が育児休業取得後、「職場に復帰した」は 70.4%、「育児休業中に離職した」は 10.0%。

○母親が育児休業から職場に復帰したのは、「年度初めの保育所入所に合わせたタイミング」だったが 63.5%。

○母親が、実際に育児休業から職場に復帰したのは、子どもが「6 ヶ月～1 歳未満」36.7%、「1 歳～1 歳半未満」が 33.8%、希望は、「1 歳～1 歳半未満」が 42.6%、「1 歳半～2 歳未満」が 23.8%。

○母親の勤め先に育児のために 3 歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「3 歳～3 歳半未満」までの希望が 32.1%ともっとも多い。次いで「1 歳～1 歳半未満」が 24.5%。

○現在も育児休業中の母親で、子どもが１歳になったときに必ず預けられる事業があれば「１歳になるまで育児休業を取得したい」が 90.2%。

○母親では、実際の復帰と希望が異なる人の 86.6%が「希望より早く復帰」、13.4%が「希望より遅く復帰」。

○「希望より早く復帰した理由」では「希望する保育所に入るため」が 62.4%ともっとも多い。
「希望より遅く復帰した理由」では「希望する保育所に入れなかったため」が 67.6%ともっとも多い。

○母親で、育児休業からの職場復帰時に短時間勤務制度を利用した人は 60.5%。

○「短時間勤務制度を利用しなかった」理由は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 38.9%でもっとも多く、次いで「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」が 32.1%、「仕事が忙しかった」が 28.3%。

10. 妊娠・出産・子育て全般（93～101 ページ）

--妊娠・出産--（93～94 ページ）

○妊娠中に妊婦健康診査を受診した人は 97.3%。

○「あまり受診しなかった」もしくは「一度も受診しなかった」と回答した人は 1.0%で、その理由は、「その他」が 47.6%ともっとも多く、次いで、「仕事が忙しかった」が 21.5%。

○希望する産科医療機関等で出産できた方は 89.0%。希望とちがった産科医療機関等で出産した人は 10.2%でその理由は、「分娩予約がいっぱいだった」が 52.9%ともっとも多く、次いで「その他」が 26.3%、「年齢や体調を理由に断られた」が 11.0%。

○妊娠中や出産後に重要なサポートは「赤ちゃんの育児相談」が 60.5%ともっとも多く、次いで「子育て中の人同士の交流」が 46.8%、「母親の「健康面の相談」が 40.5%。

--子育ての相談―（95～96 ページ）

○子育て（教育を含む）について、気軽に相談できる人は「祖父母等の親族」81.4%と「友人や知人」80.8%が多く、次いで、「幼稚園、保育園等の先生」が 35.7%。

○「地域の子育て支援施設のスタッフ」は低年齢（0 歳 17.6%、1 歳 21.3%）ほど高く、3 歳以上になると「幼稚園、保育所等の先生」の割合が 46.9%～50.5%と高い。

○共働き、教育・保育事業利用者では、「幼稚園、保育所等の先生」が 51.6%～64.6%と高い。

--周囲の支え―（97～99 ページ）

○子育てに対する周囲からの支え（育児の手伝い）は、「緊急時もしくは用事の際には、祖父母等の親族による支えがある」が 53.0%と、もっとも多く、次いで、「日常的に祖父母等の親族による支えがある」が 33.6%。「いずれもない」は 16.2%。

○年収 400 万円以下で「日常的に祖父母等の親族による支えがある」が 43.6%～54.2%と高くなっている。

○「緊急時、もしくは用事の際には、祖父母等の親族に預かってもらえる」が 60.5%。
「緊急時、もしくは用事の際には、子供を預けられる友人・知人・近所の人がいる」が 15.5%。

○祖父母等の親族に預けるのに「特に問題はない」は 56.2%。「親族の身体的負担が心配」が 27.5%。友人・知人に預けるのに「特に問題はない」は 35.9%。「負担をかけて心苦しい」が 34.9%。

○子育てを楽しく安心して行うために重要なサポートだと思うものは、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が 71.7%ともっとも多く、次いで「親のリフレッシュの場や機会の提供」が 46.3%、「子育て中の親同士の仲間づくり」34.3%、「親の不安や悩みの相談」30.1%、「子どもの発育や幼児教育のプログラムの提供」25.4%となっている。

--子育ての不安―（100～102 ページ）

○子育てについて、不安を感じたり自信が持てなくなることが「よくあった（ある）」「時々あったある）」を合わせると、「妊娠中」が 56.5%、「出産後、半年ぐらいの間」が 74.6%、「現在」が 60.9%。

○5 年前と比べると、「よくあった」と回答した人が、「妊娠中」や「出産後、半年ぐらいの間」「現在」ともに増えている。

○現在、子育てで負担に思うことは、「自分の自由な時間がもてない」が 44.7%でもっとも多く、次いで、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 41.6%、「子どもから目が離せないので気が休まらない」が 29.9%、「子育てによる精神的な疲れが大きい」が 29.3%。

○5 年前と比較すると、「子育てによる身体の疲れが大きい」（34.3%→41.6%）「子どもから目が離せないので気が休まらない」（22.2%→29.9%）「子どもと過ごす時間が十分持てない」（13.2%→16.7%）が増加し、「子育てで出費がかさむ」（49.4%→25.8%）「自分の自由な時間が持てない」（51.9%→44.7%）などでは減少している。

○所得が 200 万円以下では、「子どもと過ごす時間が十分持てない」、200～300 万円では、「子育てで出費がかさむ」の割合がその他の属性に比べて高く,利用事業別では、幼稚園、横浜市認定の幼稚園の預かり保

育で「子育てで出費がかさむ」、認可保育所・公立保育所、事業所内保育施設、横浜保育室などでは「子どもと過ごす時間が十分持てない」の割合が高い。

--子育ての悩み―（103～105 ページ）

○現在、子育てをしていて感じている悩みは、「子どもとの過ごし方・遊び方」が 45.0%ともっとも多く、次いで「子どもの食生活」が 44.1%、「子どもの健康」30.6%、「子どもの発育」29.3%。「特にない」は 10.6%。

○5 年前と比べると、「子どもの食生活」（32.0%→44.1%）「子どもとの過ごし方・遊び方」（34.9%→45.0%）「子どもの発育」（22.3%→29.3%）「夫婦の関係」（11.4%→14.0%）の悩みが増え、「子どもの健康」（34.8%→30.6%）「近所とのつきあい」（12.5%→8.2%）「親同士のつきあい」（18.2%→13.9%）の悩みが減っている。

○現在、子育てをしていて「楽しさを感じる事が多い」と「どちらかといえば楽しさを感じることが多い」を合わせると 59.0%。

○5 年前と比べて、「楽しさを感じることが多い」と感じる人が 23.3%から 30.6%と増えている。

--生活の満足度―（106～110 ページ）

○子どもを育てている現在の生活に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると 83.0%。

○5 年前と比べて、「満足している」人が 33.1%から 43.9%と増えている。

○「片働き（専業主夫）」、「配偶者がいない」の満足度がやや低い。

○年収が上がるほど満足度は高くなり、年収が低いほど不満の割合が高くなっている。

○相談する先が多いほど満足度が高まり、相談する先が無いとする人では満足度が低い。

○日常的に支えのある人では満足度が高く、支えの無い人では満足度が低い。

--子育てをしてよかったこと、うれしかったこと―（111～111 ページ）

○これまでで、子育てをしてよかったこと、うれしかったことは「子どもの成長」が 83.4%でもっとも多く、次いで「子どもを持つ喜びが実感できたこと」が 68.3%、「自分の親への感謝の念が生まれたこと」が 36.1%、「子育てを通じて自分も成長できたこと」が 34.6%。

○5 年前と比べて、「子どもを持つ喜びが実感できたこと」「子どもの成長」が増えている。

２．小学生調査

１．子どもと家族の状況（112～114 ページ）

〇2 人の世帯が 55.6%を占め、一人っ子は 24.3%、3 人以上の子のいる世帯は 18.8%である。
〇母親が回答しているケースが 86.7%。
〇年収 500 万円以上が 68.7%を占める一方、300 万円以下が 9.0%みられる。

２．保護者の就労状況（115～120 ページ）

1）父親（115～117 ページ）

〇父親の 91.6%は就労しており、就労している父親の 1 週間の就労日数は 5～6 日が 96.3%、1 日の就労時間は 8 時間以上が 93.9%。
〇就労している父親の 85.4%が 6～8 時台に家を出て、78.7%が 19～23 時台に帰宅。
〇「以前は就労していたが、現在は就労していない」と答えたのは父親の 1.1%。仕事を辞めた時期は、「子どもが生まれた時」10.7%、「子どもが小学校に入学した時」7.8%。
〇現在、就労していない父親で、「半年以内に就労する見込みがある」が 30.0%「就労希望があるが、時間や場所等の条件の合う仕事が見つからない」が 33.8%。「就労希望はない」は 15.7%。
〇仕事を始めた後、お子さんの放課後の時間を過ごす場所は「自宅」が 67.0%、次いで「はまっ子ふれあいスクール」が 31.1%、「習い事」が 24.3%、「祖父母や友人・知人の家宅」が 23.3%、「放課後キッズクラブ」は 17.5%、「放課後児童クラブ」は 1.0%。

2）母親（118～120 ページ）

〇母親の 51.4%が就労しており、就労している母親のうち週 5 日以上勤務が 53.8%、1 日 8 時間以上就労が 34.5%。5 年前と比べると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が増え、「就労したことがない」が減少。
〇就労している母親の 85.2%が 7～9 時台に家を出て、50.6%が 17～19 時台に帰宅。
〇「以前は就労していたが、現在は就労していない」と答えたのは母親の 40.8%。仕事を辞めた時期は、「子どもが生まれた時」が 45.0%ともっとも多く、次いで「結婚した時」が 30.6%。
〇現在、就労していない母親の 83.4%が就労希望または就労見込みがあり、「就労希望がない」は 11.7%。
〇仕事を始めた後、お子さんの放課後の時間を過ごす場所は「自宅」が 61.9%、次いで「はまっ子ふれあいスクール」が 39.3%、「習い事」が 28.8%、「祖父母や友人・知人の家宅」が 19.2%、「放課後キッズクラブ」は 19.0%、「放課後児童クラブ」は 3.6%。

３．放課後の過ごし方（121～143 ページ）

○放課後の事業に関する情報は「学校」が 79.2%でもっとも多く、次いで「友人・知人」40.5%。
○放課後事業の利用は 58.3%、利用していない人の利用していない理由は、「児童が帰宅する時間に保護者が自宅にいる」が 50.6%でもっとも多く、次いで「子どもがいきたがらないから」35.3%、「習い事や学習塾に通っている」33.2%。
○利用したい事業は、「はまっ子」が 11.1%、「キッズ」が 8.7%などとなっており、５つの放課後事業の合計が 24.3%。「利用希望日数」は、１日～３日が 72.9%。

１）放課後キッズクラブ（以下、キッズ）利用者（125～128 ページ）

○キッズ利用者は、全体の 14.5%。その 38.2%が週に１日利用。土曜日の利用は 13.9%。
○平日、土曜日とも利用終了時間は 16 時半過ぎ～17 時が多い。
○キッズを利用している理由は、「安全に放課後を過ごせるから」が 43.0%でもっとも多く、次いで「就労などで保護者が家庭にいないから」が 39.8%、「友達と遊ばせたいから」が 28.6%。
○17 時以降のキッズの利用希望は、現在利用している人も合わせて 30.5%。現在の月額 5000 円は「高い」「やや高い」と感じるが 35%で 3000～4000 円の希望が多い。また、１回 800 円は「高い」「やや高い」と感じるが 69.9%で 500 円か 500 円未満を希望。
○キッズに参加して「友達が増えた」が 43.5%でもっとも多く、次いで「変わらない」が 29.2%。
○キッズを利用して、保護者から見て「満足」と「やや満足」を合わせて 69.0%。
○キッズに今後望むことは、「プログラムの充実」が 44.0%でもっとも多く、次いで「児童の安全確保」が 29.8%、「スタッフ体制の充実」24.0%、「施設の充実」22.8%。

２）はまっ子ふれあいスクール（以下、はまっ子）利用者（129～132 ページ）

○はまっ子利用者は全体の 34.9%。その 41.7%が週に１日利用。土曜日の利用は 7.5%。
○平日の利用終了時間は 16 時半過ぎ～17 時が 44.8%、土曜日の利用終了時間は 11 時半過ぎ～12 時が 30.7%と多い。
○はまっ子を利用している理由は、「安全に放課後を過ごせるから」が 46.0%でもっとも多く、次いで「就労などで保護者が家庭にいないから」が 34.2%、「友達と遊ばせたいから」が 27.7%
○はまっ子がキッズに移行した際に 17 時以降の利用を「定期的に利用したい」と「緊急時だけ利用」を合わせて 54.6%。「利用予定はない」が 42.7%。
○はまっ子に参加して「友達が増えた」が 41.7%でもっとも多く、次いで「変わらない」が 31.0%。
○はまっ子を利用して、保護者から見て「満足」と「やや満足」を合わせて 64.1%。
○はまっ子に今後望むことは、「プログラムの充実」が 39.4%でもっとも多く、次いで「児童の安全確保」が 25.2%、「施設の充実」24.8%、「スタッフ体制の充実」19.5%。

３）放課後児童クラブ（以下、学童クラブ）利用者（133～136 ページ）

○学童クラブ利用者は、全体の 6.4%。その 67.2%が週に５日利用。土曜日の利用は 20.2%。
○平日、土曜日とも利用終了時間は 17 時半過ぎ～18 時がもっとも多い。希望の利用終了時間は 18 時半過ぎ～19 時がもっとも多い。
○学童クラブを選んでいる理由は、「預けていると安心だから」が 67.5%でもっとも多く、次いで「充実した時間が過ごせる場だから」が 33.0%、「迎えに行きやすい場所にあるから」が 22.3%。
○学童クラブの利用料を「高い」「やや高い」と感じている人は 58.8%。
○学童クラブを利用して「友達が増えた」が 60.2%でもっとも多く、次いで「お家の人と学童クラブのことを話したり、一緒に参加するようになった」が 36.6%。
○学童クラブを利用して、保護者から見て「満足」と「やや満足」を合わせて 67.9%。
○学童クラブに今後望む事は、「保護者の負担軽減」が 56.9%ともっとも多く、次いで「施設の充実」42.2%、「指導員の体制の充実」41.4%、「過ごし方の充実」が 25.8%。

４）企業等が運営する学童保育利用者（137～138 ページ）

○企業等が運営する学童保育利用者は、全体の 1.9%。その 44.7%が週に５日利用。土曜日の利用は 13.1%。
○利用終了時間は 18 時半過ぎ～19 時が 30.7%でもっとも多く、土曜日の利用終了時間は 17 時半過ぎ～18 時が 23.6%と多い。
○企業等が運営する学童保育を選んでいる理由は、「預けていると安心だから」が 37.8%でもっとも多く、次いで「充実時間が過ごせる場だから」が 36.9%、「夜遅くまで預けることができるから」が 33.3%。

５）障害児通所支援事業（以下、放課後等デイサービス）利用者（139～143 ページ）

○放課後等デイサービス利用者は、全体の 0.6%。その 36.3%が週に１日利用。土曜日の利用は 18.5%。希望としては、週に２日か３日。土曜日の利用の希望は 34.5%。
○17 時までの利用が 25.0%ともっとも多い。希望としては 18 時までの利用希望もある。
○放課後等デイサービスを利用している理由は、「療育を受けることができるから」が 25.0%でもっとも多く、次いで「預けていると安心だから」が 20.8%、「親がきょうだい児と過ごす時間がとれるから」が 20.2%。
○放課後等デイサービスを利用して「安心して過ごせるようになった」が 23.2%でもっとも多く、次いで「自分でできることが増えた」が 22.0%。
○放課後等デイサービスを利用して、保護者から見て「満足」と「やや満足」を合わせて 55.3%。
○放課後等デイサービスに今後望む事は、「療育プログラムの充実」が 41.1%でもっとも多く、次いで「送迎サービスの充実」が 35.1%、「指導員の体制の充実」が 26.8%、「指導員の技能の向上」が 20.8%。
○放課後等デイサービス以外に利用しているサービスでは、地域活動ホームの一時ケア事業が 56.0%ともっとも多く、次いで「障害児の居場所づくり事業」19.6%
○週当たり３日の利用希望が 23.6%でもっとも多い。土曜日の利用希望は「ある」が 32.5%。平日も土曜日もが 17 時までと 18 時までの希望が多い。

４．お子さんの障害、発達の状況（144～144 ページ）

○医師の診断を受けたことがあるのは、7.4%。
○「発達障害」が 70.5%でもっとも多く、次いで「知的な遅れ」が 21.6%、「身体障害」が 18.5%。
○地域の相談機関は「地域療育センター」が 57.0%でもっとも多く、次いで「学校」が 39.9%、「かかりつけの医師」が 12.3%、「区福祉保健センター」が 10.3%、「児童相談所」が 9.4%。

５．子育て全般について（145～155 ページ）

○小学校入学前に利用していた教育・保育事業は、「幼稚園」が 70.8%でもっとも多く占め、次いで「認可保育所・公立保育所」が 26.1%。
○子育てをしていて、地域社会から見守られている、支えられていると感じている人は「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせて 50.1%。５年前（42.8%）と比べて増えている。
○近所の人とのつき合い方は、「気のあった人と親しくしている」が 30.0%でもっとも多く、次いで「合えばあいさつぐらいはする」が 25.1%、「たまに立ち話ぐらいはする」が 24.4%、「困ったとき相談したり助け合ったりする」が 17.9%。
○子育てについて、気軽に相談できる人は、「友人や知人」が 81.2%でもっとも多く、次いで「祖父母等の親族」が 67.5%、「近所の人」が 18.3%、「幼稚園・保育所等の先生」が 15.0%。
○子どもを育てている現在の生活の満足度は、満足している（満足している+どちらかといえば満足している）が 67.6%、５年前（69.3%）と比較しても大きい変化はみられない。
○満足度の背景を属性別に分析すると、就労状況、世帯の年収、配偶者の有無、小学校入学前に利用していた事業、地域社会からの見守り、近所とのつきあい方別には、「満足している」(統合(注))が「満足していない」(統合)を上回っているが、子育てについて相談できる人の設問で「子育てについて相談できる人がいない」では「満足していない」(統合）が「満足している」(統合)よりも高くなっており、相談する人がいるか否かで生活の満足度が大きく左右されている。

注)満足度区分を統合し下記の４区分としている(以下同様)
「満足している」＝「満足している」+「どちらかといえば満足している」
「満足していない」＝「どちらかといえば満足していない」+「満足していない」

○就労状況別にみると、共働き、片働き（専業主婦）の満足度は 67.4%～71.4%であるのに対して、片働き(専業主夫)の満足度は 42.7%と低い。生活の満足度は世帯の収入が高くなるほど満足度も高くなっている。
○小学校入学前に利用していた教育･保育事業別にみると、「教育事業(幼稚園)」利用者では満足度が 71.2%であるのに対して、「保育事業(保育所等)」利用者の満足度は 62.0%とやや低い。この背景には、就労状況の違い、世帯の収入による満足度が影響していると考えられる。
○地域社会から見守られていると感じているほど生活の満足度は高く、近所とのつきあい方が親密なほど生活の満足度は高い。また、相談する人がいる人の方がいない人に比べて満足度が高く、相談先が複数にわたるほど満足度が高い。相談先別に生活の満足度をみると、近所の人がもっとも高く、次いで幼稚園・保育所の先生となっている。これらのことは、地域社会の中で身近なところでの支え合い、助け合いと、日頃子供達と接している専門家の存在が重要であることを示唆している。